

令和5年度 江戸川区立小岩第二中学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで学び、協力し合う生徒の育成 ・規律を守り、責任を果たす生徒の育成 ・健康で思いやりのある生徒の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○目指す学校像 ○目指す児童像 ○目指す教師像 	<ul style="list-style-type: none"> ・期待感をもって登校し充実感をもって下校する学校 ・将来に対する夢や希望を育てる学校・社会人としての能力・態度を身につけることができる学校 ・進んで学び、協力し合う生徒 ・規律を守り、責任を果たす生徒 ・健康で思いやりのある生徒 ・教育公務員としての自覚をもち、自分をバージョンアップし続ける教師。
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>学校ホームページの充実や連絡メールの活用等により、学校から家庭への情報発信を拡大させることができた。タブレットの活用やTeams・Formsの活用など校内のICT化を進める事ができた。エンカレッジルームを整備するなど、特別な配慮が必要な生徒への支援を促進させることができた。 <課題> 授業において生徒の主体的で対話的な学習をさらに進め、学力の向上を目指す。校庭が使用できなかったこともあり、体力の向上に課題が残った。		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策	
				取組	成果	成果と課題	評価		コメント
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進 ・学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得 ・家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科を横断し、課題解決力・判断力・言語能力・表現力を身に付ける活動を行う。 ・「よむYOMU」ワークシートに取り組み、読解力を培う。 ・「ミライシート」を活用して、個別最適な学びを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和8年度までに全国学力調査で全国平均を上回る。 ・令和6年度の全国学力調査まで、C・D層の割合を40%以下にする。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の全国学力調査において、国語は全国平均を0.2ポイント上回ることができた。各教科のC・D層の割合は55～60%であった。 ・「よむYOMU」ワークシートは年間〇回計画的に実施できた。 ・「ミライシート」は各教科で活用が進んでいるが、家庭学習での活用が不足している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・国語が全国平均を超えたことはすばらしいと思う。 ・C・D層の生徒への対応を今後も続けてほしい。 ・「ミライシート」を効果的に活用してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力調査においては、数学で全国平均を上回るようにする。そのために、前年から授業で対策問題に取り組む。 ・「ミライシート」の家庭学習での取組を促進する。
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・読書を通して探求する活動を行う。 ・調べ学習や新聞作成に図書を活用する。 ・図書館の配架を進め、活用しやすい図書館にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員が探求的な学習の成果としての作品を作成する。 ・今年度中に図書館の整備を完了させる。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年総合的な学習の時間で、図書館の本も活用して探究学習に取り組んだ。今後は探究学習をさらに発展的な取組にしていける。 ・図書館については図書担当教員と図書館支援員によって、整備を進めている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に探究的な学習をさらに進められるように。 ・立派な図書館が校内にあるので、さらに活用を広げてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年で探究的な学習をさらに進め、生徒たちの主体性を育てるようになる。 ・図書館の活用をさらに推進し、生徒が利用する機会を増やす。
	<教員研修の充実> ・教員の授業力の向上	都や区の教育委員会のほか、外部から講師を招き、授業改善を図る研修を実施する。	「授業が楽しい」と考える生徒の割合を90%以上にする。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・9月に区の指導主事による総合的な学習の時間に関する研修、11月に都の指導主事による研修を実施した。 ・今後は「授業がわかる、楽しい」という生徒の割合をさらに増やす。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業が楽しい」と思う生徒がさらに増えることに期待する。 ・指導力向上に向けた研修の充実は今後も継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研修で学んだことを引き続き授業で実践し、改善を進める。
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・「運動意欲の向上」に向けた取組の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業で補強運動を実施し、体力の向上を図る。 ・最休みの外遊びで「学年全員外遊びの日」を設定し、積極的に体を動かす習慣をつける。 ・校庭の外遊びで活用できる遊具を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストで東京都の平均を上回る。 ・生活アンケート「体力向上を意識して生活したか」の質問で「はい」と回答する生徒が90%以上となるようにする。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストでは1・2学年の男子が東京都の平均を上回ることができた。女子は各学年で東京都の平均を上回ることができなかった。 ・7月に朝運動を実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい校庭も完成したので、十分に活用し、体力テストの結果がさらに向上するようお願い。 ・朝運動が良い取組だと思う。今後も継続してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストに向けて体育の授業でも取組を進め、生徒に体力の向上を実感させるようにする。
	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・隔週で特別支援教育委員会を開催し、情報の共有や今後の方針の検討を行う。 ・ユニバーサルデザインにもとづいて教室を整備する。 ・副籍交流を促進し、取組を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・7月までに個々の支援シート(フェイスシート)を作成し、全教員で共通理解を図る。 ・チョークの色や教室掲示の仕方など全教室でユニバーサルデザイン化を進める。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・7月までに個々の支援シートを作成し、全教員で共通理解を図ることができた。 ・各教室でユニバーサルデザインのチョークを使用し、生徒への指示や声掛けについても工夫した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な生徒に対して、特別支援委員会での協議や支援シートの作成などの必要な取組が進められている。 ・ユニバーサルデザインは今後も継続して取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も支援が必要な生徒に対して、手立てを講じていく。 ・ユニバーサルデザインについては、毎回の授業のめあてなど、必要な情報を視覚化するようにする。
共生社会の実現に向けた教育の推進	<SDGsへの取組> ボランティア活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心にボランティア活動を活性化させ、SDGsについての意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートで「日頃よりSDGsに取り組んでいる」と回答する生徒を90%以上にする。 ・ボランティア活動に全生徒の30%が参加する。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動については、10月に江戸川土手清掃、1月には小岩駅周辺でユニセフ募金を実施した。 ・SDGsの意識をさらに高めさせることが課題である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸川土手清掃やユニセフ募金などの活動に多くの生徒が参加していて非常に良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsに関する取組を各学年で継続的に実施するようにする。
	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	<ul style="list-style-type: none"> ・エンカレッジルームを利用する環境を整備し、生徒がエンカレッジルームを利用しやすいとする。 ・hyper-QUの実施後、教員間で結果の分析を進め、今後の支援について方針を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エンカレッジルームの活用により、自宅にとどまる生徒数をゼロにする。 ・hyper-QUで「要支援生徒」の割合を3%以下にする。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・エンカレッジルームは登校支援員が2日間配置され、他の平日も部屋を活用したことで、利用する生徒が増加した。 ・hyper-QUで「要支援生徒」の割合が約7%であった。満足度は全国平均よりも高くなった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・登校することが難しい生徒にとって、エンカレッジルームは貴重な場になっていると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エンカレッジルームの活用方法を整備し、さらに生徒が活用しやすいものにし、教室復帰につなげられるようにする。
子どもたちの健全育成	<いじめ防止の推進> いじめ防止に向けた取組の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止総合対策に基づき、校内のいじめ防止を図る。 ・朝礼でいじめに関する講話を行う。 ・特別の教科道徳でいじめに関する授業を3回行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめ防止総合対策に基づいた対応を行い、いじめの未解決をゼロにする。 ・いじめアンケートを年3回実施する。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期・2学期にそれぞれいじめアンケートを実施し、アンケートにもとづいた聞き取りや指導を実施した。未解決はゼロである。 ・各学年の道徳の授業でいじめについて実施できた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめについては今後も定期的にアンケートを実施することで、早期発見・早期解決を続けてほしい。 ・道徳の授業では生徒同士の話し合いが活発に行われていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もいじめアンケートを定期的に実施し、いじめの早期発見に努め、早期解決を図る。
	<自校の取組の積極的な発信> ・学校ホームページの充実 ・学校公開の実施・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページから発信する情報を増やす。 ・テトルの活用をさらに進め、保護者との連携を密にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の出来事について情報を発信し、毎日更新する。 ・tetoruの各家庭の加入率を100%にし、学年通信等デジタルで配信する。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページは校内でのできごとなど、毎日更新することができた。 ・tetoruを学校からの連絡のほか、部活動での連絡や学年通信の配信などとして活用している。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校HPは頻繁に更新されているので、学校の様子がよくわかる。 ・tetoruを学校からの発信や部活動の連絡など、テトルが有効に活用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後は段階的にプリントで配布していたものをtetoruで配信する形に切り替えていくようにする。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用し、集計・回答しやすい形式を整え、結果を教育活動に活かしやすいようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Formsを活用したアンケートを実施し、改善に向けた検討を年2回以上行う。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを実施し、改善に向けた検討を行う機会をもつことができた。Formsを活用することで、保護者の方々にも回答しやすくなった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・Formsを活用することで、多くの保護者から回答を得られているのは良い。アンケートを今後の改善に生かしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後はこれまでプリントを切り取る形で提出していたものをformsでできることは実施していく予定である。
	<小学校との連携> 小中連携教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回の小中連携の日を活用し、教員や児童・生徒の連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生が本校を訪問する機会や本校教員が小学校で訪問授業をする機会をそれぞれ1回以上つくる。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期に学区内の小学生が来校し、中学校の理解を深めてもらうことができた。2学期には本校教員が小学校を訪問し、課題について協議できた。令和6年度入学生に関する情報共有も行っていく。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・小中の教員が連携することで、児童・生徒を継続的に見てほしい。小中で連携することで、中1ギャップを解消してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度入学予定の生徒については、小中で連携し、情報を共有することで中1ギャップの解消を図る。
特色ある教育の展開	<デジタル技術の活用> 授業のICT化	すべての授業において効果的にデジタル教材を活用する。	100%の教員が授業において、デジタル教科書やタブレットを活用する。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTに関する校内研修会を3回実施し、デジタル教科書の使用やタブレットの活用を拡大させた。 ・生徒用デジタル教科書の活用の仕方は今後の課題である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・各授業でICTの活用が進んでいることがよくわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修を行うことなどを通して、ICT活用の教員間の格差を是正していく。生徒用デジタル教科書の活用を推進していく。
	<「学校における働き方改革プラン」> 「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方の見直しを進め、長時間労働は是正に取り組む。 ・職員会議のペーパーレス化を進める。 ・部活動は複数顧問制とする。 ・月2回の定時退勤を推奨する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員の超過勤務時間を平均40時間以内にする。 ・職員会議の資料を100%ペーパーレスとする。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・6月の時間外労働時間の平均は45時間であったが、12月は平均40時間を達成できた。引き続き長時間労働の是正に努める。 ・職員会議のペーパーレス化はほぼ100%を達成できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・一部の先生はまだ時間外労働時間が長いようなので、すべての教職員の働き方改革が進むことを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の前半よりも後半の方が全体的な時間外労働時間は減少しているが、一部の教員の時間外労働時間が月により多くなることもあるので、仕事の進め方や分配の仕方を見直していく。